【４部】誕生から王国滅亡まで。合衆国のハワイ王国・獲得の歴史を振り返る

公開日：2023.05.17　更新日：2024.08.10

ハワイはアメリカ合衆国で、
最も新しい 50 番目の州です。

州になる以前は独立した王国でした。
ハワイ王国の誕生から滅亡までの歴史と、
今もなおハワイで訪れることができる
王国時代のスポットをご紹介します。

目　次

1. ハワイ王国が存在していた時代
2. ハワイ王国の歴史
3. 日本とハワイ王国の関係
4. ハワイの歴史を振り返る

1．ハワイ王国が存在していた時代

今は、ビッグアイランドと呼ばれる
ハワイ諸島最大の島、
ハワイ島出身のカメハメハ 1 世が
1795（寛政 7 年）年にハワイ諸島
を事実上統一して
ハワイ王国の建国を宣言し、
1810（文化 7 年）年にはハワイ諸島 8 島
を完全に支配下に収めたのが、
ハワイ王国の始まりです。

1840（天保 11 年）には憲法が制定され、
国際的にも独立国として承認されます。
1893（M26）年に立憲君主制が廃止されてハワイ共和国となり、準州としてアメリカ
合衆国に併合されるまで、約 80 年間にわたって独立国家として存在していました。
ハワイには、今も王国時代から大事に守られている深い歴史や文化が存在しています。

2．８人の王

ハワイ王国には 8 人の王が存在していました。
西洋の武器や智恵も用いてハワイ諸島を統一したカメハメハ 1 世。

次に王となった 2 世は 1 世の長男であったリホリホ。
2 世の死後、弟であったカウイケアオウリが 3 世として即位。
4 世はカメハメハ 1 世の孫、アレキサンダーリホリホ。
4 世の死後は、4 世の兄であったロット・カプアイヴァが 5 世に。
カメハメハ直系の孫にあたる 5 世の亡き後、
6 代目の王はルナリロ。ルナリロの母は、カメハメハ 1 世の姪にあたります。

ルナリロが後継者を指名せずに亡くなったため、
議会で選ばれたのが 7 代目のカラカウアです。
そして、最後はカラカウア王の妹であったリリウオカラニが 8 代目の女王となりました。

それぞれが、政治や文化の発展、外交政策や教育の充実など、ハワイの歴史に多大な功績を残し、今でもハワイの歴史や文化に大きな影響を与えています。

3．ハワイ王国の歴史 ハワイ王国の成立と初代王カメハメハ大王

photo by Wikimedia Commons

・ジェームズ・クックの渡来

18 世紀末までのハワイは、ポリネシアの島々との交流はあったものの、
諸外国との交流はなく、ハワイ諸島の中で、各地の王による土地争いがありました。
そんなハワイに初めて上陸した外国人が、英国の海軍士官であり海洋探検家であった
ジェームズ・クックです。
1778（安永 7）年 1 月、クックはカウアイ島のワイメアに上陸し、その当時の
英国海軍大臣の「サンドイッチ伯爵」の名前から、ハワイ諸島はサンドイッチ諸島と
命名されました。

ハワイの人たちとクックらは物々交換を行ったりと、友好的な関係を築いていくように
なりました。カメハメハ 1 世がクックと出会って、西洋の武器や知恵を手に入れたことに
より、ハワイ諸島統一へ向けて動き出しました。

4．初代王カメハメハ大王の誕生

1791 年、大首長の死後ハワイ島は
三つの勢力に分かれました。
キラウエア火山の噴火で敵の軍が全滅したこ
とに加え、カメハメハは西洋の大砲や銃、知恵
を利用してハワイ島を制圧します。

続いて、マウイ島のイアオ渓谷、オアフ島のヌ
ウアヌパリでこの二島を制していた
カヘキリという王の軍隊を破り、1795 年にハ
ワイ王朝の樹立を宣言しました。

その後カウアイ島に攻め入ろうとしますが嵐や疫病で実現しませんでした。
最終的にはカメハメハの要求を受け入れて、カウアイ島の王であった
カウムアリイが降伏し、1810 年にハワイ諸島が統一され、ハワイ王国が誕生しました。

5．文化と産業の発展

・カメハメハ王朝（初代～5 代目）

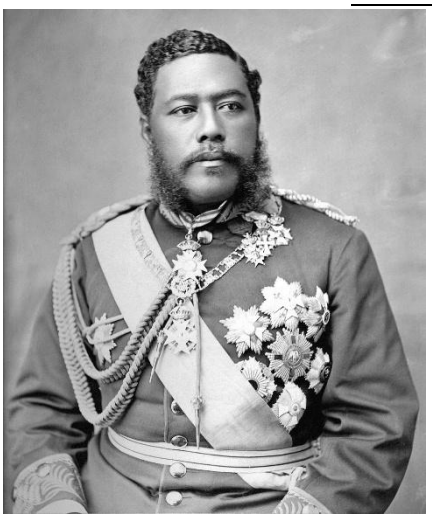
初めて西洋の知恵や武器が、ハワイに入ってきたのが、カメハメハ大王と呼ばれる
1 世の時代。別々の首長が治めていたハワイ 8 島を統一し、ハワイ王国を設立しました。
2 世の時代、ハワイには男女が一緒に食事をしてはいけないなど「カプ」と呼ばれる戒律がありましたが、カメハメハ大王の妻であるカアフマヌが二世にカプ制度の廃止を求め崩壊しました。

3 世が在位している間、ハワイ王国の経済を支えていたのは捕鯨産業でした。
ハワイの人たちは元々鯨を海の神の化身と崇めていたため、捕鯨はしていなかったのですが、目まぐるしく西欧化が進むハワイでは捕鯨産業が盛んになります。

専制君主国であったハワイは、カメハメハ三世の時代に憲法が制定されて立憲君主国へと変わり、宗教の自由化によってキリスト教が広がって急速に近代化していきます。
疫病により先住ハワイアンの人口も激減した時代でもありました。

4 世はアメリカ人宣教師による英語教育を受けて育ち、欧州へ赴いたり、アメリカ合衆国大統領とも会っています。この頃アメリカ本土で石油が発見されたことにより、
鯨油の価格が暴落。

ハワイ経済を支えていた捕鯨産業が廃れていくことになります。
5 世の時代、捕鯨産業に変わって砂糖産業がハワイの経済を支えるようになりますが、サトウキビ農園での労働力が不足していたため、移民局を設立し諸外国からの移民の受け入れを開始。日本人も農園で働くために移住を始めました。



・カラカウア王朝（6 代目～8 代目）

6 代目の王ルナリロは、カメハメハ大王の直系の孫に当たる五世の亡き後、議会の選挙で選ばれた初めての王となりました。
捕鯨産業の衰退によりハワイ王国の経済は低迷していたため、ルナリロ王は砂糖にかかる関税撤廃を目指して、
アメリカ合衆国との互恵条約を試みますが、条約締結には至りませんでした。

7 代目の王となったカラカウアは再び議会で選挙が行なわれて選ばれました。

アメリカ合衆国との互恵条約締結を成功させ、
砂糖産業でハワイ経済を繁栄させますが、同時にハワイでの西欧人の経済力も強まり、
アメリカ合衆国への併合を求める声が強くなりました。
長期の世界旅行をしたことでも知られ、日本にもこの時立ち寄っています。
宣教師によって 54 年もの間禁止されていたフラを復活させたのもカラカウアでした。
兄であったカラカウアの後を継いで、
ハワイ王国 8 台目の女王となったのがリリウオカラニ。
彼女がハワイ王国の最後の王となります。
在位していたのは 2 年間でしたが、ハワイ王国が終焉する激動の期間となりました。
ハワイ最後の女王、リリウオカラニについてさらに詳しくご紹介します。

6．アメリカ合衆国に併合されるまで

・最後の女王・リリウオカラニ

カラカウア王がサンフランシスコで亡くなった後、
8 代目の女王になったのが妹のリリウオカラニです。
在位中、ハワイの経済を仕切っていた西欧人たちと、
ハワイアンの人々の対立が激化していきました。

アメリカ合衆国への砂糖の関税も撤廃され、
締結されていた互恵条約も意味を失います。

プランテーション所有者たちは、王国に土地が没収されるのではないかと不安になり、
アメリカ合衆国への併合に賛成し始めます。

そして、リリウオカラニはネイティヴ・ハワイアンの権利を取り戻そうと、
憲法を改正し、新憲法を発布しようと試みますが、一部の大臣たちから
同意を得ることができませんでした。
結果的に女王は退位することになり、サンフォード・ドールが暫定政府の樹立を
宣言し、ハワイは共和国となります。

次第に、ハワイで王政復古を求める動きが出始め、武装蜂起が起き、リリウオカラニの
邸宅からも武器が見つかったという理由で、共和国政府により反逆罪の罪で逮捕され、
イオラニ宮殿で 8 ヶ月もの間幽閉されることになりました。

ハワイでは、誰もが知っている「アロハ・オエ」という曲は、
幽閉されていた間に女王が作曲したものだとも言われています。
リリウオカラニが、ハワイ最後の女王として在位していた 2 年間は、
ハワイが王国から共和国に変わったという激動の時代でした。

7．ハワイ共和国からアメリカ合衆国へ

1894（M27）年に共和国になっていたハワイは観光地としての開発が進んでいました。

1898（M31）年 7 月 7 日にマッキンリー大統領がハワイの併合を承認。
1900（M33）年 6 月 4 日にはハワイ領土府が設立されアメリカ合衆国の準州になります。
イオラニ宮殿では、ハワイ国旗が降ろされ、星条旗が掲げられました。
1901（M34）年にはモアナホテル
（現 モアナ・サーフライダー・ウェスティン・リゾート＆スパ）が開業、
アラワイ運河の建設が始まったり、
当時は沼地であったワイキキの埋め立てが開始されたりと、
現在のワイキキの様子に近づいていきます。
その後、第二次世界大戦後の 1959（S34）年にアメリカ合衆国の 50 番目の州と、
なりました。この年には今でもハワイ最大のショッピングモールである
アラモアナ・センターがオープンしています。

その後ハワイは大ヒット映画のロケ地となったり、大型旅客機の就航によりアメリカ本土だけでなく日本からの観光客も増え、観光産業が盛んになりました。1993（H5）年にハワイ併合は、違法であったと見なされ、アメリカ合衆国は公式に謝罪しました。

8．日本とハワイ王国の関係 （Ctrlkey＋クリックでご覧ください）

誕生から滅亡まで。ハワイ王国の歴史を振り返る

ハワイはアメリカ合衆国で最も新しい 50 番目の州です。
州になる以前は独立した王国で、アメリカの中でもかつて王国であった州は、ハワイ王国の誕生から滅亡までの歴史と、今もなお、ハワイで訪れることができる王国時代のスポットをご紹介します。

日本とハワイ王国の関係

ハワイ王国は砂糖産業が拡大したため、サトウキビ農園や製糖工場で、働く労働者を確保するために、諸外国から移民の受け入れを開始しました。

明治元年（1868 年）に日本人が
初めて、ハワイのサトウキビ農園で
働くために移住し、彼らは元年者と呼ばれています。中国やポルトガルなど様々な国からの移民もいましたが、日本人移民が一番多く、1868（慶応 4/M 元）年から 1924（T13）年までの間に、約 22 万人がハワイへ移住しました。

移民の多くはハワイに定住し、日系アメリカ人として、ハワイ社会の基礎を作り上げていきました。ハワイ王国 7 代目の王であったカラカウアは、日本を初めて公式に訪問した国王。

外国元首の初来日であったため、横浜港でカラカウアが作詞したハワイ王国の国歌「ハワイ・ポノイ」の演奏で歓迎をうけ、手厚く迎え入れられました。

「ハワイ・ポノイ」は、現在はハワイの州歌として祭典や学校で親しまれています。
日本では人気の海外旅行先であるハワイですが、実は昔から日本人移民や王の来日など、昔からハワイと日本は強い繋がりがありました。

9．Episode　ハワイ王室と日本の皇室の縁談

　ハワイ王国のカラカウア王は、このようなアメリカ人の介入を強く警戒していた。それに対抗するために、彼はある外交上の秘策を思いついた。1881(M16)年、カラカウア王は、日本を訪問、表向きは日本人移民を労働力として送って欲しいという交渉であったが、このとき国王は随行したアメリカ人側近に知らせずに明治天皇に面会を求めた。

面会に応じた天皇に国王が密やかに切り出したのは、ハワイ王室と日本の皇室が縁戚関係を結ぶことだった。自分の姪の 5 歳になるカイウラニ王女と 15 歳になる山階宮定麿が、具体的な候補者としてあげられた。驚いた明治天皇（この時 29 歳）は、前例のないことなので、として即答を避け、後日返答すると言って帰ってもらった。

結局この縁談は成り立たなかったが、カラカウア王は真剣だったのであり、**アメリカに抵抗するためには日本との結びつきを強くしておくことが必要だ**、と考えていたのだった。
＜猿谷要『ハワイ王朝最後の女王』2003　文春新書　p.11-14＞

もし、この縁談が成立していたら…、太平洋の歴史は大きく変わっていたであろう。

（4 部了）